

氏 名	栗飯原 文子 教授
こんな研究 をしています	英語・仏語で書かれたアフリカ文学、特に小説を中心に研究しています。 最近ではアフリカのスペキュラティヴ・フィクションに関心をもっています。
こんな成果 を挙げてい ます	【論文】 「アフリカ文学が紡ぐ「いま」 第3回 アフリカをクィア化する／クィア化するアフリカ——クィアアフリカ文学の波」 『思想』 岩波書店, 2019年12月号. 「アフリカ文学が紡ぐ「いま」 第2回 メイド・イン・アフリカの可能性——アフリカの出版の未来」 『思想』 岩波書店, 2019年6月号. 「アフリカ文学が紡ぐ「いま」 第1回 アフリカ文学とはなにか——五〇年後の始まり」 『思想』 岩波書店, 2018年10月号. 【翻訳】 アブドゥルラザク・ゲルナ『楽園』白水社, 2023年. マアザ・メンギステ『影の王』早川書房, 2023年. チゴズィエ・オビオマ『小さきものたちのオーケストラ』早川書房, 2021年. オインカン・ブレイスウェイト『マイ・シスター, シリアルキラー』早川書房, 2021年. チヌア・アチュベ『崩れゆく絆』 光文社古典新訳文庫, 2013年.
ほかに、こん なジャンル に関心をも っています	・アフリカのポピュラー・カルチャー ・アフリカ映画・音楽 ・アフリカ哲学 ・パンアフリカニズムの歴史・思想 ・旧植民地世界の文学 ・ジェンダー・クィア理論
こんな授業 を行なって います	多言語相關論 IA(春)/IB(秋)：アフリカ文学概論 I/II 現代アフリカ文学のさまざまな作品に触れ、歴史的・社会的文脈をふまえつつ、主題、手法、表現を学びます。いくつかのトピックに分けて作家と作品へのアプローチをおこない、アフリカ文学の主要なテーマを学び、その全体像と魅力をとらえることを目的としています。なお、アフリカやアフリカ文学に関する知識はまったく必要ありません。
学会や社会 でこんな活 動をしてい ます	アフリカ（系）の作家による、古典から最新の作品まで、重要なもの、おもしろいものを日本語で紹介できるように頑張りたいと思っています。 自分が翻訳した作品やアフリカ文学全般に関するレクチャーをときどきおこなっています。
私が思う多 文化的かつ、 インターカ ルチュラル な人物	アフリカ大陸（出身）の作家のほとんど全員が“インターカルチュラル”だと思います。彼ら彼女らは、二つ以上の言語と文化をまたぎ、大陸内を移動、内外を往来して活躍しているからです。作品にもそれが色濃く反映されています。